

3月定例会・藤田議員の一般質問



米原市民報

日本共産党米原市議員
山脇正孝 Tel.52-1093
日本共産党米原市議員
藤田正雄 Tel.55-1527

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

オーガニック食材を学校給食に

3月定例会(2月28日)の一般質問最後に藤田議員が一般質問を行いました。テーマは「安全、安心でおいしい給食について問う」と「環境にやさしい農業、家族経営について」です。詳しくは米原市議会のホームページでの動画をご覧ください。

藤田議員の一般質問

オーガニック食材の学校給食

Q、取り組みを問う。

A、遺伝子組み換え食品は使わないこととしています。レーク伊吹農協の場合は、残留農薬検査を実施していただき安全性の確認を行っています。特に本市が力を入れている取組みとしてはアレルギー対応で、最も高いレベルとなる代替食による提供を行っており安全な給食を提供しています。

Q、おいしい給食のための取り組みを問う。

A、子どもたちに人気の献立メニューを受け継ぐとともに、新たな食材を使用し工夫した献立を提供しています。子どもたちの感謝の手紙や寄せ書きをいただき、調理師や栄養士の励みにもなっています。食育については、年間計画に基づき指導を行っています。

Q、環境こだわり農産物の給食使用の取り組みについて問う。

A、市内での生産は、水稲、そば、柿、まくわの4種で、その栽培面積は減少しています。近年の物価高騰に伴う生産コストの上昇や地場産物の活用など安定した供給量の確保ができない状況であり、現在、本市での使用は、平種なし柿のみとなっています。

Q、オーガニック(無農薬、化学肥料未使用)食材の使用についての方を問う。

A、積極的に地元産食材の購入に努めています。近

年の気象条件や生産コストの高騰から、地元産食材であってもその確保に苦慮している状況です。オーガニック食材については、安定した供給量が見込めない状況にあります。

小規模・家族経営農業を問う

Q、市の考え方は。

A、「米原市農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想」に基づき、農地の集積・集約を進め、担い手農業者の効率的かつ安定的な農業経営の実現を目指しています。小規模農家や家族経営農家の方々の営農も含めて市内の農地が保全されていることは認識しており、今後も支援のあり方について検討します。

Q、国の「みどりの食料システム戦略」について市の計画は。

A、国は、令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」を策定し、温室効果ガスの削減や、有機農業の取組面積の拡大など、2050年までに目指す姿と取組方向を定めました。市においては認定を受けた農業者等はいません。

環境こだわり農業の取り組み

Q、市の環境こだわり米等の作付け状況は。

A、令和元年度に236ha、令和6年度は156haと減少傾向にあります。また作物としては、水稲、そば、柿、まくわの栽培の取組が行われました。

Q、オーガニック農業の推進方針は。

A、環境こだわり農産物の栽培面積が伸び悩む中、将来的にオーガニック農産物

を学校給食に必要な量を確保し、安定的に供給することは、難しいのではないかと考えています。また、現時点において、独自の補助制度や関係団体との連携組織の設立は予定しておりません。

農業施設の劣化対応は

Q、ほ場整備から数十年、農業施設の劣化の対応は。

A、大規模な改修は地元負担も高額となり、農業離れが更に加速化することも懸念されるなど、取組を進められない実情があります。施設の改修が必要な地域や団体に対し、これらの支援策の活用を促し、農地の維持を図っていきます。



山脇議員の代表質問動画



藤田議員の一般質問動画

